

挑む!

西日本唯一の女性南部杜氏

川石 光佐さん(37)

日本酒 食卓に根付かせたい



岩手を本拠に各地の酒造りをリードする集団「南部杜氏」に名を連ねる女性、西日本でただ一人。兵庫県姫路市で106年続く家業の蔵元「灘菊酒造」で腕を振るう。

毎冬、仕込みが始まった蔵は東北から来た蔵人の活気であふれ、蒸し米の香りに包まれる。そんな雰囲気は幼いころから好きだった。両親は「後を継いでほしい」と言わなかったが、受験を控え、集めてくれた大学案内の中に、醸造を学べる東京農業大学があっ

兵庫県姫路市生まれ。東京農業大学醸造学科(いまは醸造科学科)卒。2010年、難関の南部杜氏の試験に一発合格。酒造技能士1級の資格も持つ。

た。思いをくみ、進学した。

卒業して実家に戻った2001年当時、日本酒の生産量は右肩下がり。師匠役の南部杜氏に付き、酒造りの勘どころや4、5人の蔵人を差配する手法を見て、盗んだ。3年後にその杜氏が蔵を去ると、全責任が両肩に。「1年でも休んだら蔵が死ぬ」。酒造りにかけるエネルギーを一度絶やすと再起が難しいと伝える師の言葉を胸に、試行錯誤を重ねた。

33歳のとき、蔵に入って10年培った技を集結し、自らの名を冠した特別純米酒「33 MISA」を醸した。地元のみ酒を使い、米の味の再現にこだわった酒は、世界的な品評会で銅賞を得た。

「酒造りに終わりはない。思いを重ね、深い味にしたい」。日本酒をもう一度食卓に根付かせる、それが夢だ。

文・千種辰弥 写真・堀内義晃

記者から

日本酒ブームをブームで終わらせない。発酵中の酒に似たふつふつとわき上がる気迫を感じた。